

授業科目	多国籍企業論				単位	2		
履 修	選択	関連資格			ナンバリング	TO21512J		
開講年次	3・4年	開講時期	後期	該当DP	DP1-1 DP1-3 DP2-1 DP3-1			
担当教員	池口 功晃							
授業概要	<p>経済活動のグローバル化が進むなか、国際ビジネス活動において主要な役割を演じている多国籍企業は、経済・社会・文化などの面で、世界に大きな影響を及ぼしている。本教科では、そうした多国籍企業を理解することを通して、国際ビジネス、(貧困問題を含めた)世界の動き、日本企業、欧米企業などの動向を学ぶ。</p> <p>また、多国籍企業はどのように生成・発展してきたのか、進出先の国(ホスト国。日本への進出の場合を含む)、世界、および本社が所在する発祥国にどのようなメリット・デメリットを与えているのか、企業として存続し競争力を強める上でどのような戦略と行動(顧客志向の面など)をとっているのかを、多くの事例を通して学ぶ。</p>							
学生が達成すべき行動目標	<p>1. 多国籍企業が進出先国(ホスト国)、グローバル社会および本社所在国にもたらすメリット・デメリットについて、さらには多国籍企業の自社のサプライチェーンにおける社会的責任(Corporate Social Responsibility: CSR)について説明できる。</p> <p>2. 日本・欧米の多国籍企業は企業経営の上で戦略的にどう考え、行動しているのかを事例に即して説明できる。</p>							
達成度評価								
評価と評価割合／ 評価方法	試験	小テスト	レポート	発表(口頭、プレゼンテーション)	レポート外の提出物	その他	合計	備考
総合評価割合	50	50	0	0	0	0	100	
知識・理解 (DP1-1)	10	10					20	
知識・理解 (DP1-2)								
知識・理解 (DP1-3)	20	20					40	
知識・理解 (DP1-4)								
思考・判断 (DP2-1)	10	10					20	
思考・判断 (DP2-2)								
関心・意欲 (DP3-1)	10	10					20	
関心・意欲 (DP3-2)								
態度 (DP4-1)								
態度 (DP4-2)								
態度 (DP4-3)								
技能・表現 (DP5-1)								
技能・表現 (DP5-2)								
技能・表現 (DP5-3)								
具体的な達成の目安								
理想的レベル				標準的なレベル				
多国籍企業に関する基本的な知識をよく理解し、グローバルな現実の様々な問題を考えるときに考え方を説明し、応用することができる。日本の多国籍企業、外国の多国籍企業に関する新聞などの報道を十分理解することができる。				多国籍企業に関する基本的な知識を身に付け、それを人に説明することができる。				
授業計画								
進行	テーマ・講義内容			授業の運営方法	学習課題(予習・復習)		予習・復習時間(分)	

1	対外直接投資とは：多国籍企業となる条件である対外直接投資とはどういう意味か。	講義	該当部分の復習	60
2	生成と成長：多国籍企業はどのような歴史的過程を経て生成・成長してきたのか。	講義 質問・感想票にて質問等を受ける。	該当部分の予習、復習	60
3	動機：企業はどのような動機から対外直接投資(海外進出)を行うのか。	質問への回答 講義	該当部分の予習、復習	60
4	マネーとの対比：グローバル化の担い手である多国籍企業と短期資金(マネー)とはどのように異なるのか。	講義 質問・感想票にて質問等を受ける。	該当部分の予習、復習	60
5	デメリット(弊害)：多国籍企業が進出先(ホスト国)に及ぼすデメリットにはどのようなことがあるのか。資源・労働力の搾取等に関連して、人権侵害や環境汚染しないといった社会的責任 CSRについて解説する。	質問への回答 講義	該当部分の予習、復習	60
6	メリット(恩恵)：多国籍企業が進出先に及ぼすメリットにはどういうことがあるのか。	講義 質問・感想票にて質問等を受ける。	該当部分の予習、復習	60
7	新しい潮流 BoP ビジネス：多国籍企業が進出先に及ぼすメリットに関連して、新しい潮流といえる貧困層を相手にする BoP ビジネスとはどのようなものか。	質問に答える 講義	該当部分の予習、復習	60
8	グローバルな視点：多国籍企業がグローバル社会にもたらすメリット・デメリットにはどのようなものがあるか。Googleなど巨大IT企業はどのようにして世界的な力を得ているのか。	講義 質問・感想票にて質問等を受ける。 課題を提示する。	該当事項の予習、復習。 与えられた課題に取り組む。	60
9	日本への対内直接投資：進出先が日本である場合に目を向け(対内直接投資)、在日外資系企業の動向、日本側の誘致の状況はどのようになっているか。	質問に答える 講義	該当部分の予習、復習 与えられた課題に取り組むとともに それを就職活動における企業研究として役立てる。	60
10	本社所在国の視点：自国の多国籍企業が自国に及ぼすメリット・デメリットにはどのようなことがあるのか。	講義 質問・感想票にて質問等を受ける。	該当部分の予習、復習 与えられた課題に取り組むとともに それを就職活動における企業研究として役立てる。	60
11	競争戦略と行動：多国籍企業は、顧客満足への対応として、どのような競争戦略と行動を取ってきたのか。	質問に答える 講義	該当部分の予習、復習	60
12	競争戦略と行動：欧米の多国籍企業は、ブランド強化への対応として、どのような競争戦略と行動を取ってきたのか。	講義 質問・感想票にて質問等を受ける。	該当部分の予習、復習	60
13	戦略と行動：日本の多国籍企業、および日本に来た多国籍企業(在日外資系企業)は、どのような競争戦略と行動をとってきたのか。	質問に答える 講義	該当部分の予習、復習	60
14	戦略と行動：多国籍企業は、グローバル市場とローカル市場の特性への対応として、どのような競争戦略と行動をとってきたのか。	講義 質問・感想票にて質問等を受ける。	該当部分の予習、復習	60
15	まとめ	講義	過去に学んだ部分を全体的に復習する。	60
16				
17				
18				

19				
20				
21				
22				
23				
24				
25				
26				
27				
28				
29				
30				
理解に必要な予備知識や技能	授業で初めて聞く用語や情報が多いかもしれないが、なるべくニュースや新聞報道などで国際ビジネス問題、国際問題にあらかじめ触れておいたり関心を高めておいたりするとよいであろう。			
テキスト	指定なし プリントを配付予定			
参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	プリント教材に参考図書、新聞雑誌の記事名を随時記す。			
授業以外の学習方法・受講生へのメッセージ	新聞・雑誌を読んだり、TV番組を見たり、また、多国籍企業のホームページ等を見たりして、多国籍企業の活動内容(社会貢献活動を含む)を知り、関心を高めてほしい。 学んだ知識・考え方を就職活動にも役立ててほしい。			
達成度評価に関するコメント	試験、小テストについては授業で説明する。			